



公認会計士法友会会報

公認会計士法友会

第37号

令和7年1月発行



令和6年度会員研修会・合格祝賀会開催のお知らせ

令和7年1月25日(土)に開催いたします。

- ・会員研修会 受付 15:30 / 開始 16:00 / 終了 17:00
演題「スタートアップ・ベンチャーの経営強化のやり方(仮)」
講師 三浦 太 会員(1985年経営学部卒)
場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎「F309」
- ・合格祝賀会 受付 17:30 / 開宴 18:00 / 終了 20:30
法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎6階 薩埵ホール
(会費)公認会計士及び会計士補 10,000円 / 試験合格者 5,000円

参加の連絡をいただけない方は、右のQRコードを読み取っていただき、入力をお願いいたします。
合格者が47名と過去5番目(ここ10年では最大)の人数です。ぜひ、皆さんでお祝いしたいと思います。



目次

会長挨拶	2	友好団体等への参加報告	10
雑感	4	当会顧問の「和食克雄先生感謝の集い」開催報告	12
令和5年度公認会計士試験合格者の近況	6	令和5年度定期総会決議等の概要	14
法政士業の会だより	8	会員研修会報告	15
一般社団法人法政大学校友会の活動状況について	8	会費等納入の御礼	15
ゴルフコンペ	9	校友会終身会員所属変更	15
		編集後記等	16

同封物:会報、郵便口座振替用紙

会長挨拶

会長 太田 荘一 (昭和52年卒)



新年おめでとうございます。

公認会計士法友会の会員の皆様、新年のご祝詞を申し上げます。各位の各分野での活躍をお慶び申し上げます。

2025年が皆様にとりまして明るく輝かしい年であることを祈念申し上げます。

毎年、全国の会員の皆様から、会費と寄付金のご芳志を賜り、誠にありがとうございます。

会員各位の多大なるご支援に本当に感謝に堪えません。

おかげ様をもちまして、法政大学の内外における公認会計士法友会のプレゼンスを何とか維持できているのも、会員の皆様方のご賛同とご協力の賜物であると、役員一同を代表いたしまして、深く感謝申し上げます。

法友会の目的である『会員の相互交流・親睦を深めるとともに、母校の発展と後進の育成に貢献する』に基づき、新しい若い世代の会員への橋渡し役になるべく、河西事務局長はじめ、役員諸氏の精力的なご対応と協力を受けながら、なんとか会長を務めさせていただいております。引き続き、会員の皆様からのご指導ご鞭撻のほど、なにとぞお願い申し上げます。

今回も、この半年間のイベントについてのご報告と、これまでの法友会活動を振り返って、今後の方針等、雑感を述べさせていただきたいと思っております。

●この半年間の中で一番の特筆すべきイベントは、当会前会長の和食克雄顧問に対する「和食克雄先生感謝の集い」の開催です。これは、長く和食会長時代の事務局長を務められた当会副会長の飯塚昇さん(昭和48年卒)の発案で、これに賛同する発起人数名が、約10ヶ月以上前の今年2月から企画を開始し、2024年12月7日(土)に、76名の出席者を迎えて、アルカディア市ヶ谷で開催したものです。(詳細報告は、別途記事ご参照。)

【法政大学校友会主催「全国卒業生の集い秋田大会」への参加】

●2024年10月26日(土)に秋田市で開催されました「法政大学全国卒業生の集い 秋田大会」に和食顧問(法政士業の会会長)はじめとして、公認会計士法友会会員10名(東京から和食顧問、飯塚副会長、石川副会長、山田副会長、太田と東北地区から、毎回参加される北村敏雄さん(1972年卒)、尾町雅文さん(1976年卒)に加えて、今

回、福島在住の鈴木和郎さん(1981年卒)、富樫健一さん(1986年卒)、仙台在住の東海林寛史さん)が式典及び全体懇親会に参加されました。懇親会お開き後の二次会として、「東北法友会」と称して、近くの焼き鳥屋さんで、和食先生を囲んで、秋田の美味しいお酒と比内鳥で大いに盛り上がりました。ご参加の皆様、ありがとうございました。

●式典当日の午前中に開催された法政士業の会による地元卒業生等を対象にした「よろず無料相談会」には山田努会員(1984年卒)、石川正敏会員(1983年卒)と太田が参画しましたが、公認会計士の相談ブース(上場準備、経営戦略等)には今回も相談者はありませんでした。同相談会は今後も継続して開催が予定されていますので、会員諸氏には是非ご協力のほどお願いいたします。

●次年度の「全国卒業生の集い」は、既に「福岡大会」として、開催日程(2025年10月18日式典)が決定しておりますので、会員の皆様には(特に西日本地区の会員の皆様には)是非とも奮ってご参加いただければと思います。

また、新年の恒例行事である「2025年オール法政新年を祝う会」は、今年もホテルでの開催(2025年1月26日(日))が予定されております。会員の皆様におかれましては是非とも参加されて、大いに法政OB・OGの校友の連携を図ろうではありませんか!!

【会員寄付の拡充と本学受験生への「奨学支援金」について】

●法友会として継続して注力していきたい活動といたしましては、会員の皆様からのご寄付浄財をいかにして拡充していくかという課題に対する対応です。

法友会活動は会員の皆様からの会費・寄付金の浄財により成り立っています。昨今、会員の高齢化とご寄付賛助者数の減少により、当会の財政収入にも少なからず影響が出ております。

●一方、活動の範囲はますます拡大しており、特に、7年前に創設し給付を継続しております本学学生に対する公認会計士試験受験生のための「奨学支援金制度」につきましては、嬉しいことに、その成果が年々目に見えて来ております。

●令和6年11月にも定例となっている高度会計育成センターが主催の学内簿記チャンピオン大会(詳細は後掲の参加報告記事参照。)において、公認会計士法友会からの奨学支援金として、成績優秀者6名に受給資格証を付与(短答式受験を条件に用途を専門学校の受講費充当に限定して5万円を給付するもの)いたしました。

当該「奨学支援金」は、これまでの9年間で33名に給付し、うち18名が最終合格しており、受給した学生の合格者数及び合格率は非常に高いものとなっております。法友

会としては、これを継続し、さらに充実したものにしていきたいと考えております。このための原資として会員の皆様方からのご寄付浄財が不可欠でありますので、なにとぞご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。

●今後も、高度会計人育成センターと協力して、受験生の増大及び合格者増加のための諸施策を支援していきたいと思っております。

【法政大学出身の合格者増大のための諸施策について】

●付属校の内部進学生を対象にした公認会計士制度説明や職業の魅力の紹介等の啓蒙活動を推進しております。合格者数上位の大学は、付属校と大学との連携により、高校生のうちから公認会計士試験合格のための教育課程や職業啓蒙活動が進んでいると聞いております。法政大学においても、経営学部の高大連携ご担当の川島先生のご指導のもとで、この1月には、法政二中高において、「公認会計士制度説明会(合格体験談、ワークショップを含む)」を開催することを企画しています。これらの好例を他の付属校にも拡充することを推進し、当会においては、公認会計士の職業の魅力の啓蒙する活動を拡充したいと考えています。

●これらの活動が近い将来、後進の会員各位がそれぞれの得意専門分野や出身高校毎に対応できるよう、そのルールを敷設することが現役員体制の使命と考えます。

【定期総会の開催と役員改選について】

●今年度の定期総会は、2024年9月にボワソナードタワー会議室で開催いたしました。(詳細は、後掲の報告ご参照。)総会後の会員研修会は、昨年春の叙勲を受けた古田土満会員(前号の紹介記事ご参照。)によるご講演を、講師のご経験とご見識に基づいた貴重なお話をいただきました。また、その後の懇親会には、来賓として高度会計人育成センター副センター長の岸教授、友好他大学から多数ご臨席いただいた会計士団体の会長、副会長、法政士業の会の役員諸氏も交えて会員相互の懇親を深めることができました。

●さて今年度は、例年9月に開催予定の公認会計士法友会の定時会員総会において役員改選時期になります。昨年12月に開催されました「和食先生感謝の集い」の記念小冊子にも掲載させていただきましたとおり、私(太田)は、2015年に和食前会長より引き継いでから今年で10年になりますので、ここで一区切りしたいと考えております。また、現役員体制も、皆さんそれぞれの役割を大変精力的にご対応いただいておりますので、これをさらに増強するため、ここでもう一段の若返りを図るべく、多くの若手役員を登用したいと考えております。

皆様方からのご意見やアドバイスをいただければ幸いです。

【その他の雑感・報告事項】

●私儀、法政大学出身の公認会計士を代表して、学校法人法政大学の非常勤監事を拝命しておりますが、今年3月をもって、2期8年の任期を全うして退任となります。在任中は、皆様方のご支援を受けながら、法政大学の健全なる発展維持のために尽力させていただきましたが、力不足で十分な貢献ができたとは思えません。退任後もなんらかの形で法政大学の今後益々の発展維持に貢献させていただければ幸いです。なお、私の後任(次期監事)は、法友会会員として長く貢献されている小野隆良会員(1978年卒)が大学の評議員会の同意を得て理事会で選任されております。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

●ここ昨年来の当会ほかの主催による懇親会等の場において「コンプライアンス違反」や「ハラスメント」にあたると思われる不適切な言動があったことに関して、参加者の方から苦言が呈されており、私自身もそのように考えております。法政大学は、「ダイバーシティ」を理念に掲げている大学であり、卒業生のOBOG会活動においてもその精神はしっかり心していかなければならないと考えております。会員の皆様におかれましては、是非、今後の活動においてはその精神を踏まえて、言動には十分にご注意され、そのようなことに抵触するような言動は厳に慎まれますことをお願いいたします。私自身もあらためて肝に命じております。

【最後に】

昨今、経済界は人手不足で学生の売手市場の状況が継続しており、公認会計士試験受験を目指す学生も思ったようには増えませんが、2024年度も多数の最終試験合格者が輩出され、当会にも多くの新しい仲間が増えます。

今後も法政大学からより多くの公認会計士を輩出するためにも、さらに、将来のある若い皆さんが生き生きとして集い結べる業界・魅力ある士業となるよう、法友会としてもまだまだやるべきことはたくさんあります。

2024年度の公認会計士試験合格祝賀会は、2025年1月25日(土)に開催いたします。毎年参加されています会員諸氏におかれましては勿論、しばらくご無沙汰しております会員の皆様にも是非ともご参集をいただき、「法政、我が母校♪」と声高らかに校歌をご一緒しましょう。

「フー！！フー！！法政、ガンバレ！！ガンバレ！！合格者」

以上

雑感 I love♡ Thailand～笑顔あふれる微笑みの国～

伊藤 章子（平成16年卒）



私は法政大学在学中から旅行が大好きで、時間を見つけては旅行へ出掛けています。初めての海外旅行は大学時代に友人と訪れたタイでした。それから20年以上経った今でも、タイは私にとってかけがえのない大好きな国です。最近では2024年11月16日から24日の9日間でタイ北部のチェンマイ、

チェンライ、バンコクから近いナコンパトム、アユタヤを巡ってきました。いつも私のタイ旅行をアレンジしてくれるのは、タイの大学で日本語教師経験があり、タイ語が堪能な高校時代のソフトボール部の頼りになる後輩です。

チェンマイでは「ロイクラトン祭り」を堪能

今回のタイ旅行では、まずチェンマイで「ロイクラトン祭り」に参加しました。チェンマイの「ロイクラトン祭り」は、毎年11月の満月の夜に開催されるタイの伝統的なお祭りです。人々が川や湖に灯籠(クラトン)を流して感謝と祈りを捧げる行事で、チェンマイでは特に「イーペン祭り」として知られ、空にランタンを放つ美しい光景が特徴です。祭り期間中、山車のパレードや花火、文化イベントが開催され、幻想的な雰囲気、山車が街を包みます。パレードは青森のねぶた祭りに似た雰囲気、美男美女、可愛い子どもたちが煌びやかな山車に乗って、笑顔で手を振りながら颯爽と進む光景は圧巻でした。

灯籠(クラトン)流し



山車のパレード



チェンライでは山岳少数民族の子どもたちを支援する「さくら寮」を訪問

次にチェンマイからバスでチェンライに移動しました。私は数年前から山岳少数民族の子どもたちを支援する「さくら寮」で里親支援をしています。「さくら寮」は、チェンライにある「さくらプロジェクト」によって運営されている寄宿施設で、タイ北部の山岳少数民族の子どもたちの教育を支援するための場所です。多くの山岳民族の家庭は、経済的な理由で子どもを学校に通わせることが難しく、教育機会が限られています。さくら寮では、こうした子どもたちが安心して暮しながら学校に通える環境を提供し、勉強や生活を支援しています。寮には少数民族の生徒が集まり、寄付や支援金で運営されており、年間で約50人の子どもたちが生活しています。寮生は「さくら清水中央ホール」などの施設を利用し、さまざまな活動を通じて生活スキルや文化的な価値観も学んでいます。教育支援の他にも、民族文化を尊重しながら自己肯定感を育む活動も行い、子どもたちが自らのアイデンティティを大切にすることを奨励しています。

今回の訪問で初めて、里親支援をしているアーノン・セイリー君とも会うことができ、立派に成長した姿に感動しました。アーノン君は真面目に勉強に取り組む優等生で、私たちが訪問した時に開催された歓迎セレモニーでも英語で司会をしてくれました。チェンマイの大学への進学が決ったので、大学でしっかり勉強できるように、これからも支援を続けたいと思っています。

歓迎セレモニーでは、色とりどりの民族衣装で踊り、浴衣姿で「翼をください」をタイ語と日本語で大合唱してくれました。小学生から親元を離れて、寮生活をしながら学校に通う健気で可愛い子どもたちの姿を見ると、感動して涙が出ました。自分は今まで恵まれた環境で勉強をして、法政大学に進学し、会計士にもなれたことに感謝し、小学校にも通えない環境にいる子どもたちに希望の翼を与えられる「あしながおばさん」になれるように会計士として更に仕事を頑張ろうと心新たにしました。

近年、日本でも異常気象による災害が増えています。2024年9月上旬に「さくら寮」があるチェンライでも未曾有の災害が発生しました。8月下旬以降、ミャンマーからタイに流れ込むコック川の上流地域で降り続けた大量の雨と台風11号(ヤギ)の影響などにより、チェンライの中心を横切って流れるコック川が氾濫し、大規模かつ広域な洪水が発生しました。「さくら寮」のある地区でも道路がすべて冠水し、寮の敷地内にも大量の水が流れ込み、寮の施設は1階部分がすべ

て床上約80センチまで浸水しました。幸い人的被害はなく安堵しましたが、浸水被害により沢山の物資が必要となり、現在、新たな寄付者からの支援を必要としています。法友会の皆様の中でご支援いただける方がいらっしゃれば是非、伊藤までご連絡ください。

さくら寮



里親支援をしているアーノン君と



民族衣装で舞踊を披露



浴衣姿で「翼をください」を合唱



ナコンパトムの小学校で日本語レッスン

今回のタイ旅行で初めて訪れたのがナコンパトムです。ナコンパトムは、タイの中央部に位置する歴史的な都市で、タイ仏教の起源地とされる場所です。世界最大級の仏塔「プラ・パトム・チェディ」があり、多くの巡礼者や観光客を惹きつけています。バンコクから約50kmと近く、アクセスも便利で、タイの歴史や文化を感じられるスポットとして人気です。

タイ旅行をアレンジしてくれる後輩がナコンパトムにある大学で日本語教師として働いていた縁で、ナコンパトムにある小学校で日本語レッス

日本語での自己紹介の練習風景

ンをする機会に恵ま

れました。チェンマイ

のさくら寮の子ども

たちと違って、日本

人と初めて会う子

どもたちばかりで、

最初は緊張した様

子でしたが、徐々

に私たちとの交流

に慣れ、一生懸

命、日本語を覚えて

来て、最後には全

員が日本語で挨拶、

自己紹介ができる

ようになりました。

女性の校長先生が

とても教育熱心で、

子どもたちにこの

ような貴重な機会

を定期的に与えて

あげたいので、

是非、また来てくだ

さいと言ってください

と、とても嬉しかったです。



集合写真



終わりに

今回の旅行では、タイの伝統行事を堪能し、多くの子どもたちと交流する貴重な経験ができたので、次回も同じ時期にチェンライ、チェンマイ、ナコンパトムを訪れたいと思っています。タイは諸外国と比べて治安が良く、まさに「微笑みの国」。タイの人々は穏やかでフレンドリーな方が多いので、日本人が異文化に触れる絶好の海外旅行先だと思います。是非、皆さんもタイの豊かな文化や歴史、美しい自然やビーチ、美味しいタイ料理、そして温かい人々とのふれあいを体験しに訪れてみてください！

令和5年度公認会計士試験合格者の近況

合格者に近況を報告していただくコーナーです。

●石川 稔也（令和4年卒）

<ご挨拶> 法友会の皆様、初めまして。法政大学法学部国際政治学科の卒業生で、現在はEY新日本有限責任監査法人に所属している、石川稔也と申します。この度は近況報告という形で会報に寄稿する機会を与えてくださったこと、心より感謝申し上げます。今後ともお世話になることが多々あると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<会計士試験について> 私が公認会計士の道を歩み始めたのは、法政大学第二高等学校に通っていた時にロータリークラブの青少年交換プログラムを通じて1年間タイに留学したことがきっかけでした。タイの文化と言語に魅了され、将来はタイと

日本の架け橋となる仕事に就きたいという夢を抱くようになりました。大学時代もこの夢は色褪せることなく、法政大学法学部国際政治学科のアジア国際政治コースを専攻するとともに、長期休暇はほとんどタイで過ごし、言語力と国際感覚を磨き続けました。

しかし、大学3年の冬、就職活動を控えた時期に、自分の将来に対する不安が芽生えました。タイと日本の懸け橋になるような仕事に就くためには言語力だけでは不十分かもしれないと感じ、もう一つの武器として公認会計士の資格を目指すことにしました。公認会計士を目指したのは、会計基準は世界的にほとんど統一されており、国際的なキャリアを築く上で強力なバックグラウンドになると感じたからです。

試験勉強を始める時期が遅かったこともあり、大学在学中の合格は困難であったことから、EY新日本有限責任監査法人で監査トレーニーとして働きながら試験勉強に励みました。結果として、2023年8月の試験で念願の公認会計士試験に合格することができました。

合格への道のりは容易ではありませんでしたが、監査法人での実務経験と、支えてくださった多くの方々のおかげで乗り越えることができました。

<現在の仕事について> 公認会計士試験合格後、私は引き続きEY新日本有限責任監査法人でのキャリアを歩んでおります。現在は主に大手商社の監査業務に携わり、日々新たな

発見と学びの連続です。商社というビジネスの性質上、多岐にわたる業界との接点があり、国際的な取引が非常に多いため、言語力と国際感覚を活かした監査業務の実施が出来ていると実感しております。

監査業務は、企業の財務諸表が適切に作成されているかを検証し、投資家や利害関係者に対して信頼性のある情報を提供する役割を担っています。この責任感と使命感を胸に、日々の業務に取り組んでいます。特に、国際財務報告基準(IFRS)に関する知識は、グローバルに展開するクライアントの監査業務を実施する際には不可欠であり、私はその専門性を深めるべく、実務経験を積み重ねています。

また、監査法人での仕事は、単に数字をチェックするだけではなく、クライアントのビジネスモデルを理解し、業界の動向を分析することで、より質の高い監査を提供することが求められます。私は、タイでの経験を活かし、東南アジアのみならず世界の経済動向に関する知見を深め、クライアントにとって真の価値を提供できる監査人になりたいと考えています。

さらに、監査業務を通じて得た知識と経験は、将来的にはタイと日本のビジネスの架け橋となるための基盤を築くものと信じています。会計士としての専門性を高めながら、国際的な視野を持ち続けることで、両国間の経済的な連携と発展に貢献できるよう努めてまいります。

私の現在の仕事は、公認会計士としての専門性を磨き、国際的な視野を広げる絶好の機会となっています。監査法人での経験を通じて、私はプロフェッショナルとして、また一人の社会人として成長を続けていきます。

<プライベートについて> 試験合格後、勉強に専念していた期間を経て、ようやくタイへの旅行を再開することができました。タイへの旅行は、私にとってはただの休暇ではなく、自分自身を見つめ直し、仕事でのストレスを解消し、新たなエネルギーを得るための大切な時間です。タイのビーチでのんびりと過ごすこともあれば、バンコクの活気ある市場を歩き、新しい刺激を受けることもあります。そして、何よりもホストファミリーとの再会は、私の心に新たな活力を与えてくれます。

これからもタイとの絆を大切にしながら、プライベートと仕事の両方で充実した日々を送っていきたいと思います。今後タイと日本、両国の架け橋としての役割を果たすことができれば、これ以上の喜びはありません。

タイで得た経験は、プライベートの充実だけでなく、仕事においても新たな視点を持つことに繋がっています。

<終わりに> 今後は、タイと日本の架け橋となるべく、会計士としての専門性を活かした仕事を通じて、少しでも社会に貢献していきたいと思っています。これからも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。



●山本 奈緒（令和4年卒）

▷ご挨拶

令和5年度公認会計士試験に合格した山本奈緒です。2022年3月にキャリアデザイン学部を卒業しました。大学での一番の思い出は、2年生の8月に学部のプログラムで海外インターンに参加したことです。シアトルにある航空博物館で観光アンバサダーとして、航空機の説明や展示場の案内を行い、たくさんの観光客の方と交流しました。今、私は有限責任あずさ監査法人の第四統轄事業部に所属し、ライフサイエンス分野のクライアントで監査を行っています。



▷公認会計士を志したきっかけ

公認会計士という職業にずっと憧れていました。会計・監査の専門性を活かし、自身の知識や経験に基づいて指導性を発揮する。でも、公認会計士は難関国家資格の一つ。試験に挑戦するには勇気が必要です。あっという間に大学3年生。一般事業会社への就職活動を選びました。

当時は、新型コロナウイルス感染症が広がっていた時期です。企業の採用人数は大幅に減少され、納得のいく就職先が見つかりませんでした。ただ、これが私にとって奮起するきっかけとなりました。自分の力を試してみたい。難関試験だとあきらめていたけれど、これがラストチャンスかもしれない。そう思い、内定をもらっていた企業を辞退しました。

▷受験時代

大学4年の5月。公認会計士試験の勉強は、簿記3級の復習からスタートです。新型コロナウイルスで、12月短答が中止となりました。その翌年の12月に短答式試験にどうにか合格。そして8月の論文式試験。自分を追い込んでしまったせいか、試験の数日前から体調がすぐれず。しかも、試験当日は明け方まで勉強してしまっただけで、睡眠不足の状態でした。試験会場の近くの桜上水駅まで母が付き添ってくれたのですが、そこで貧血となり、手が震え、体が動かず、倒れてしまいました。心配した父と兄が車で駅まですぐに駆けつけてくれて、どうにか試験会場にたどり着きました。ただ、その時は試験開始の10分あと。午前10時40分です。試験官に事情を説明して、どうにか「受験させてほしい」とお願いしたのですが、1科目目の監査論の着席時刻は試験開始の20分前（午前10時10分）です。受験はできません。

「また、もう一年、勉強しないとイケないのか」

いや、それだけではない。家族に迷惑をかける。どうしよう。涙すら出ません。そんなとき、試験官が「2科目目の租税法からなら受験できますよ」と言ってくださいました。それを聞いた父が、「1科目でも合格できれば、来年の負担が軽くなる。本番の雰囲気を知るために席に座ってみたら」と言いました。

そうか、科目合格ならある。どうせ1科目目の監査論は受け

ていないから、残りの科目を受けたところで私の不合格は決まっている。ということは、逆にプレッシャーはない。これは、むしろ有利なのではないか。そう思うようになりました。

「今まで頑張ってきたのに何もしないで帰るのは嫌だ」

そう考える自分がいました。いったん、試験会場の近くにある笹塚のホテルに戻り、父と一緒にそば屋に行きました。食事はまったく喉を通りません。ですが、「やってやる」と気持ちが変わっていました。

そのあと、父とタクシーで試験会場に戻り、2科目目の租税法から席につきました。まわりの受験生の視線が忘れられません。「なぜ、今から受験するのか」と思われているのかな。恥ずかしくて、家に帰りたくもなりました。でも、逃げてはダメだ。今まで支えてくれた家族に恩返しをするんだ。完全にアウェーな状況。ペンを強く握りしめ、ひたすら解き続けました。そうして、3日間を乗り越えました。

合格発表日、まさかの3つの科目合格。努力が報われた瞬間でした。

この結果をもとに2024年1月、有限責任あずさ監査法人に短答合格アシスタントとして入所しました。監査業務に従事しながらの受験勉強です。それから1年後、取りこぼした2科目を受験し、公認会計士試験に合格。いろいろなことがありました。ですが、すべて私の宝です。どんなときでも「あきらめない」。この経験を大事にします。

▷監査法人での勤務

今、有限責任あずさ監査法人で、憧れていた公認会計士への道を歩んでいます。私が関与しているライフサイエンス分野は、人々の健康に直結する業界である成長産業で、いろいろな会計論点に関わることができます。クライアントからもチームメンバーからも刺激を受ける毎日です。大変なこともあります。

が、「信頼される会計士」になるために必要なのだと信じ、日々、知識と経験を重ねています。これからも、監査業務を通じて、クライアントやチームメンバーと議論したり、難しい会計論点を担当したりできるように自己研鑽に励みます。



▷おわりに

私が公認会計士としてキャリアを形成できたのは、法政大学の「自由な学風」、学長、キャリアデザイン学部の先生方、そして多くの友人との出会いがあったからです。自分は何をしたいのか。自分は社会に何ができるのか。そう考える機会をいただいた法政大学 キャリアデザイン学部に感謝します。法政大学の卒業生として、社会に貢献できる人材としてこれからも頑張っていきたいと思えます。

法政士業の会だより

小場 貴之(昭和63年卒)

●秋の神宮野球観戦（法政対早稲田戦）

2024年9月29日（日）明治神宮野球場にて開催された法政VS早稲田戦の観戦を行いました。

当日は、時に小雨が降る天気だったが、応援席での観戦は大変盛り上がりました。

試合のほうは、途中まではリードしていたが、逆転の3ランホームランを受け残念ながら負けてしまいました。その後は外苑前の居酒屋ミライザカにて、和気あいあいとビジネス交流会を行いました。参加者は28名とかなり盛り上がりましたので、次回開催の際は皆様もご参加ください。

●法政士業の会定期総会

2024年11月30日（土）に第7回定時総会・講演会・懇親会をアルカディア市ヶ谷6階阿蘇にて開催しました。49名の総会参加者、滞りなく議事は進行し全ての議案についてご承認いただきました。

講演会は、司法書士の岩白啓佑先生から「相続登記の義務化」について講演いただきました。令和6年の4月から施行されている制度ということで実務家として実になる講演でした。

懇親会も多数の先生に参加いただき、皆様から一言挨拶ということでスピーチを行い、近況を伺うことが出来ました。最後は法友会太田会長のエールで閉まりました。



一般社団法人法政大学校友会の活動状況について

飯塚 昇(昭和49年卒)
(法政大学校友会監事)

法政大学校友会は、一般社団法人に移行して11年目となり、竹中宣雄会長のもとで執行部による校友会運営全般の見直し、①年度同期会からのパートナー組織への移籍ルールの緩和、②女性活躍推進、③現役学生への貢献施策、④校友会の会館施設の在り方の検討などが進められております。

法政大を卒業する約6,000名が年度同期会に所属する校友会会員となるようになって11年、その後、順次、公認会計士法友会のようなパートナー組織へ本人の意向・希望で所属が移行していきませんが、令和6年12月時点では、パートナー組織数（終身会員登録40名以上の団体）は84組織、年度同期会69,000人、既卒8,000人、終身会員登録数は77,000人を超えております。

この大所帯のネットワークを、法政大学、法政大学後援会、法政大学校友会が三位一体となって活動し、世代間を超えた組織的なつながりを実現するための活動を行っています。

法政大学校友会では、1月の「オール法政新年を祝う会」、9月の「オール法政ゴルフ大会・総長杯」、10月か11月の「法政大学全国卒業生の集い」のようなイベント的な行事だけでなく、法政大学出身のビジネス経験豊富な財界人、独自の発想とビジネス感で成長を目指す若手実業家、新規ビジネスの起業家

など、「社会を生き抜く実践知」を発信及び共有するための正課授業や集まりを企画運営しています。

直近では、令和6年度春学期から始まった「社会連携講座」、「理系コンソーシアム」、11月に開催された「法政アルムナイ交流会」などの活動がそれです。

また、コロナ禍で3大イベントが中止となる中、急速に進化を続けるデジタル技術を利用したコミュニケーションツールである法政大学校友会アプリを開発・リリースし、「デジタルでつながる校友の輪」を他大学に先駆けて実現しています。

①イベント情報の配信、②デジタル会員証、③卒業生インタビューと特集ページ、④優待サービス（法政大学クラブオフ）、⑤卒業生のお店紹介（法政オレンジMAP・一部を除き法政割引が受けられます。）などがその内容で、他大学などから多くの照会が寄せられているそうです。

公認会計士法友会で校友会終身会員となっている132名の方には、法政大学校友会アプリを積極的に閲覧、利用していただければと思います。

以上

ゴルフコンペ

石川 正敏(昭和58年卒)

●第37回CPA十月会コンペのご報告

11月4日(文化の日の振替休日)に、茨城ゴルフ倶楽部にて、開催されました。昨年とは打って変わり、暑いくらいの晴天に恵まれ95名の参加者が集まり、大盛況のコンペとなりました。

昨年より大会ルールが変更され、10人以上の参加校は2チームに分けての参加となり、前年及び前々年の優勝校も優勝権利が与えられることになりました。

今年の優勝校は昨年に引き続き一橋大学、個人優勝は横浜国立大学の内田愛希さんでした。一橋大学の上位4名の新ペリアネットスコアと準優勝校の慶應大学Bチームとの差は、なんと0.8という僅差でした。個人優勝の内田さんは、グロス77という素晴らしいスコアで、グロス優勝、女性優勝、初参加者に贈られるフレッシュマン優勝を総なめにしました。

我が校は、残念ながら、Aチームが9位、Bチームが12位/16チームと残念な結果でしたが、コンペ懇親会後にみらい平駅近くの中華で反省会を催し、大いに親睦を深めました。



R061104 第37回CPAゴルフ10月会・茨城GC

●第21回法友会ゴルフコンペのご報告

上記、十月会に先立ち、茨城GC東コースにて「第21回法友会ゴルフコンペ」を10月23日に開催しました。14名の参加者が集まり、優勝は酒井宏暢会員、準優勝は鈴木一宏会員でした。稲垣大輔会員が法友会ゴルフコンペに初参加のエントリーです。コンペ後は、「ねぎしや」という居酒屋にマイクロバスで移動し、大いに盛り上がりました。



R061023 第21回法友会ゴルフコンペ・茨城GC

法友会コンペはハンディキャップ方式のコンペですが、1位・2位に入賞しなかった方はハンデが1打ずつ増えていく方式を取っていますので、参加回数が多いほど、入賞の可能性が増えていきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

●第23回オール法政ゴルフ大会「総長杯」のご報告

2024年9月9日(月曜日)キングフィールズゴルフクラブにて、校友会主催による総長杯ゴルフコンペが貸切で開催されました。

法友会からは、太田会長、飯塚副会長、小野会員の3名が参加頂き、懇親を深めました。来年は2組を組成できるよう、参加者を募りたいと思います。皆さま、よろしくお祈いします。



R060909 第23回オール法政ゴルフ大会 総長杯 キングフィールズGC 士業の会参加者

ゴルフ関係の、ご参加申込、お問い合わせは下記まで。

eメール: ishikawa@aiwa-tax.or.jp

FAX: 03-5715-3318 (あいわ税理士法人 石川正敏宛)

友好団体等への参加報告

●経営学部同窓会懇親会 河西正之(平成元年卒)

2024年6月22日に河西が参加してきました。同日に金子先生を偲ぶ会があったため、遅れての参加となりました。

既に挨拶などは終わっていたためどのような話が行われたのかはわかりませんでしたが、次年度の事業計画に野球観戦が入っている事は分かりました。中々参加できないのですが、秋の大会には出られるようにしたいものです。最近、他の同窓会組織にも声を掛けて共同で観戦をしているとのことでした。

学生も参加しており、ゼミへの入会のサポートとか行っているそうです。HAPP在籍の学生もいて、監査法人の見学にも行ったそうです。他の学生とは、簿記やITパスポートといった就職に有利そうな資格の話をしました。いろいろな可能性を掴んでもらいたいと思います。



●青学会計人クラブ第43回定期総会懇親会 三浦 太(昭和60年卒)

2024年7月1日(月)18時から学内にあるアイビーホール青学会館3F「シノメ」ホールで開催され、我々のほか来賓は8大学から17名、当会からは小場貴之監事と私の2名で参加してきました。

青学会計人クラブの岩田篤会長が開会の挨拶をなされ、青学校友会の木村文幸副会長が乾杯の音頭をとられました。大学を代表して稲積宏誠学長が挨拶を述べ、いろいろ大学の状況を説明されました。大学としては75周年にあたりますが、学園創設から150年の伝統があることを知り、青山エリアに根付いた歴史ある学び舎であることを知りました。常勝軍団である駅伝チームにも言及され、強さの要因や原監督の人となりなど大変興味深いお話を聞くことができました。

青学会計人クラブの特徴としては、本学のように公認会計士法友会と法政会計人会がそれぞれあるのではなく、公認会計士と税理士が共にクラブ会員となっているようです。そのため、法政会計人会の武田真吾副会長も参加されました。

食事は洋風を中心にbuffet立食形式でアルコール類も振舞われました。

大学全体としても試験合格者も少しずつ増えているようで、老若男女が参加されているようでした。会計大学院も継続しており、会計教育への理解も進んでいっている印象でした。

以上、参加報告させていただきました。



●公認会計士白門会懇親会 石川正敏(昭和58年卒)

2024年7月10日に開催されました、公認会計士白門会(中央大学)に参加してきました。

小生が中央大学の懇親会に参加するのは、初めてです。実は、小生の次男が今年3月に中央大学の法科大学院を卒業しましたが、その大学院と場所を同じくする駿河台キャンパスで懇親会が開催され、ちょっと感激しました。

懇親会場は19階に設けられたGood View Diningというレストランで、写真にもあるように、我が法政大学のボアソナードタワーと同様、たいへん見晴らしのよい会場でした。市ヶ谷との違いは、駿河台という場所柄、直ぐ近くに明治大学の校舎や高層ビルが間近に見える事でしょうか。

会場のレストランは学生も気楽に利用できる感じで、40名以上の会合であれば、貸切が可能となるとの事でした。当日の参加者は白門会の方が20名くらい、来賓の方を合わせて30名程度だったと思います。どの大学も同じですが、白門会も若手参加者を集めるのに、苦労しているようでした。白門会会長の山田様が来年は是非、貸切の人数を集めたいとはなしておられました。

他大学からの顔見知りの参加者や小生の子会社顧問先に勤務の会計士の方ともお会いできた事など、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

(写真は山田治彦会長と)



●公認会計士稲門会定期総会懇親会 太田 荘一(昭和52年卒)

2024年7月11日に早稲田大学大隅会館で行われた公認会計士稲門会定時総会懇親会に、越智副会長と太田で出席して参りました。

公認会計士稲門会では、前会長の杉田純会長の「参加型」の稲門会活動を旗印にした積極的な活動方針により、スタートアップ支援要請に応える「起業支援アクセラ部会」などのほか、「女性会計士部会」や「後進育成部」がそれぞれのリーダーが中心となって在校生向けに公認会計士の啓蒙活動を、更に付属・系属校6校に対してはそれぞれの卒業生がセミナー開催等の積極的な働きかけをしているとのことでした。またこれに伴い、当会の「奨学支援金」制度を参考にされたと思われる「奨学・支援金」を創設、会員からの寄付を募って基金(特別会計)を設定し、付属・系属高を含む在校生に支給することも始められたとのこと、その迅速かつ組織的な活動対応には吃驚するとともに、非常に参考になりました。

(写真は、新会長の脇一郎会長と)



●専修大学会計人会 令和6年度定期総会後の懇親会 山田 努(昭和59年卒)

令和6年7月26日(金)に専修大学140年記念館16階相馬永胤記念ホールにおいて専修大学会計人会の懇親会があり、公認会計士法友会から河西事務局長と山田が出席して参りました。また、法政会計人会の高田住男会長もお越しになられていました。

「計理の専修」の所以(ゆえん)は、大正時代にaccountingを会計学と訳すか計理学と訳すかの論争があったことによるものという話は興味深いものでした。また、現在は「質楽会」という名の勉強会を年に3回実施しており、1回は公認会計士が、1回は税理士が、1回は大学教員が担当しているという話も参考になりました。

来賓のJICPA茂木哲也会長からは、専修大学OBで2016年にドラフト指名され巨人・楽天でプレーし2023年に公認会計士試験に合格した池田駿さんの話題と、最近、侍ジャパン前監督の栗山英樹さんと「信頼を育てるフィールドの作り方」について特別対談された話をご紹介いただきました。7月に公表されましたJICPAの「統合報告書2024」をぜひご覧いただければと思います。

来賓等の挨拶、歓談と続き、じゃんけん大会が始まりました。受付で三角くじを渡されていたので、?と聞いていましたが、ここで使いました。抽選で景品があたる、のかとおもいきや、まずは抽選で10名を決め、その10名で景品をかけてじゃんけんを行うという2段階選抜でした。他の友好大学の懇親会に参加してきましたが、このような企画は初めてです。

ちなみに、山田、河西の2名とも、抽選に漏れました……。



●簿記チャンピオン大会 河西正之(平成元年卒)

2024年11月9日(土)に市谷キャンパス富士見ゲートで開催された簿記チャンピオン大会の懇親会に参加しました。簿記チャンピオン大会はHAPP(会計専門職講座)1年生の2級相当の大会です。成績上位者には会計士試験短答受験を要件に法友会から奨学支援金が支給されます。

当日は41名が参加していました。試験終了後は、懇親会が開かれ、石川副会長、鶴藤幹事、河西の他、若手2名(中野さん、向井さん)が、学生と語りました(太田会長は、体調不良のため、冒頭に挨拶をして退席しました)。何人かの学生と話す、公認会計士を目指している人が前回より多いと感じました。年によって変動はありますが、多くの学生に目指してもらえればと思います。

最後に成績発表で、上位6名の人に奨学支援金受給資格照明書を渡しました。1位の方は98点(100点満点)でした。頑張れHAPPの学生!!



当会顧問の「和食克雄先生感謝の集い」開催報告

太田 荘一 (昭和52年卒)

●昨年、12月7日(土)大安吉日に開催されました「和食克雄先生感謝の集い」の発起人には、卒業年次順に、矢部豊副会長(1966年卒)、飯塚昇副会長(1974年卒)、太田荘一会長(1977年卒)、石川正敏副会長(1983年卒)、河西正之事務局長(1989年卒)、牧野智成会員(2000年卒)、新井良明会員(2011年卒)の7名で組成し、法友会会員の各年代層における開催連絡と参加のお声掛けを担当いただきました。また、発起人事務局として対面及びweb会議を、併せて10回近い打ち合わせと数回の発起人打ち合わせ会議を行い、当日の運営・段取り等を企画しました。

●おかげさまで、10月にまず法友会会員を中心に開催通知を出したところ、喜んで出席あるいはご都合ご事情で欠席との回答を問わず、多くの方から「和食先生に対する感謝の言葉」をいただきました。八十歳を超えた大先輩やまだ三十代の若手会計士の面々まで、和食先生とのご関係やその時代々にどれも実感のこもった内容でした。これらは、「メッセージ集」として制作、装填し、当日、飯塚昇さんから紹介され、和食先生に記念品として贈呈されました。

●和食先生からのご要望もあり、法友会会員だけでなく、商学研究会時代に共に勉強されたご同輩、後輩諸氏の方々にも別途、郵送で開催をお知らせし、(皆様80歳を超える方々ですのでご参加は叶いませんでしたが、皆様から心暖まる多くのメッセージをいただきました。)また、会の趣旨から来賓はいませんでしたが、法政大学から、和食先生と会計大学院で一緒された岸牧人教授、公認会計士講座を中込世雄先生から引き継いでご尽力された神谷健司教授、現在の高度会計人育成センターを主導される川島健司教授の各先生方に限定してご出席をいただきました。岸先生には心からのメッセージを、神谷先生には懇親会でのご挨拶を、また川島先生には小冊子にまるで和食先生の講演内容を写実したようなご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

●今回の開催にあたり、記念の小冊子を作製しようということになり、3ヶ月程前から編集に取りかかり、飯塚さんと河西さんに、この機会に、和食先生が、法政大学入学後に所属され、また長年にわたって指導、教鞭を執られ後進の育成に関与された、法政大学における公認会計士受験団体の歴史を振り返るために、国家試験の受験サークルである「商学研究会」、経営学部附属機関の「公認会計士講座」、専門職大学院としての「会計大学院」、それらの発展的な全学的な受験機関としての「高度会計人育成センター」に至るまでの関係資料を各自の自宅から引っ張り出していただきました。

●当時の会報や会員名簿等を見直して、懐かしく当時のことを

思い出すと共に、1983年(昭和58年)に創立、2006年(平成18年)に再結成された我が公認会計士法友会は、今年で創立41年、再結成後18年目になることがわかりましたが、公認会計士法友会として、周年記念行事や記念誌をまだ一度も実施や発行をしていないことに気がつきました。

●いよいよ開催日が近づき、最終的に、出席者は76名ということで、公認会計士法友会の通常の定期総会等での参加人数の約倍の人数で開催されることになりました。会場の設定は、飯塚さんが、当日配布の記念小冊子、席順、式次第等の準備は、ほとんど河西事務局長が一手に引き受けていただきました。

●当日は、法友会研修担当副会長の大谷はるみさんの司会で始まり、はじめに、発起人を代表して矢部豊さん(1966年卒)から、ご挨拶をいただき、学生当時からの和食先生との長いお付き合いと思い出を熱く語っていただきました。

●続いて、いよいよ和食先生からの講演が始まり、演題は「法政大学と共に 公認会計士和食克雄の60余年を振り返る」ということで、和食先生のご経歴を辿り、学生時代の商学研究会の先輩方の思い出や公認会計士として現場の第一線で経験されたことや、日本公認会計士協会理事として活躍されたこと、また、講演の中にご趣味のお話やゴルフの話などはさみながら、約1時間の講演をいただきました。講演時間は予定より早く終了しましたが、ながいご経験を踏まえた興味深い内容であったと思います。

●講演から懇親会までの休憩時間には、今回、全国遠くからご参加いただいた諸先輩方や久々に懐かしい顔ぶれが揃い、昔話や現況報告に話の輪がいくつも出来て、皆さん、懇親会の場所への移動を忘れるほどでした。懇親会の席次は、基本、卒業年次順に設定し、当日の式次第に記載の席次表に従い、ご着席いただきましたので、定刻どおりスムーズに開宴することができました。

なお、講演会に遅れて参加される方や懇親会から参加する方のために、受付をお願いした鶴藤葉子さん(2002年卒)と森口輝来さん(1999年卒)にはずっと受付席で待っていただき、大変恐縮でした。いつも本当にありがとうございます。

●開宴の司会は発起人で、司会経験の豊富な石川正敏さん(1983年卒)が初めから、乾杯のご挨拶を、長野からご参加いただいた年長者の西澤利雄さん(1970年卒)にお願いしました。乾杯前のご挨拶では、和食先輩への感謝の言葉をいただきました。

●歓談が始まり、このままでも十分かと思われるほど続いてい

ましたが、あらかじめご挨拶をお願いしていた方に、まず、遠く山口県下松市からご参加いただきました神田忠二郎さん(1972年卒)を皮切りに、引退後山梨の山中湖に在住されている高村茂さん(1973年卒)からPW時代の興味深いお話を十分にいただき、続いて、年次が一気に進んで、杉本喜代美さん(1984年卒)から和食先生への感謝の気持ちが一杯のご挨拶、更に発起人の若手一番手の牧野智成さん(2000年卒)から、感謝の気持ちをまとめてきた文章を手にして、丁寧なご挨拶をいただきました。

●ここまで挨拶が進んだところで、お待ちかねの飯塚さんからのスライド・ショーが始まり、前列テーブルの年次が古い方々全員の注目のもと、懐かしい法政大学の校舎やキャンパス、昔のプレハブ講座室の写真等に加えて、会計学の大御所の先生方が全員揃いの貴重な写真の解説に皆さん、見聴き入っていました。本日のメインイベントでした。いつもながら、ここまでのものを作られることに感服いたしました。

●ご挨拶に戻り、今回ご夫婦で出席された発起人最若手の新井良明さん(2011年卒)から、HAAPの立ち上げ時から講師をされた話や奥さんが会計大学院で和食先生にお世話になった経緯の紹介がありました。ご挨拶の最後は神谷健司先生(1981年卒)に公認会計士講座のご苦労話で締めさせていただきました。

●まだまだ宴たけなわではありましたが、中締めは、校歌斉唱とエールということで、太田荘一法友会会長(1977年卒)より、皆様への感謝の挨拶の後、佐藤廣昭先輩から引き継いだ「～オレンジの情熱とその香りが満ち溢るとき～」の口上を述べた後、あらかじめ用意されていた法政大学校歌のCDが流れ、スライドの歌詞を確認しながら出席者全員が大きく手振りしながらの2番まで大斉唱でした。続くエールは、「フレーフレー法政！」の後、「ありがとう！ありがとう！和食」で全員の思いがひとつになりました。

●その後、懇親会のお開きは、日本公認会計士協会副会長の小倉加奈子さん(1988年卒)に和食先生への花束贈呈のプレゼンターをお願いしていたのですが、とその前に予定外で、1969年卒の齊藤理さんから大きな花束をご用意されてきてのご挨拶と贈呈をいただき、その後、飯塚さんからメッセージ集の作製経緯のご紹介があり、小倉さんから和食先生へのご慰労と感謝の気持ちを込めた花束とメッセージ集の贈呈が行なわれました。

●宴が最高潮に高まったところで、出席者全員による記念撮影が前列テーブルを下げて、椅子を並べての大仕事になりましたが、なんとか会場の係りの方のご協力をいただいて、なんとか全員が写っていました。よかったです。

(なお、全員の集合写真は、出席いただいた皆様には、後日、メール添付等でお送りさせていただきました。また、残念ながら今回、ご事情やご都合で当日は欠席された方で「メッセージ」をいただいた方々には、別途、記念小冊子をお送りさせていただきました。)

●以上の式次第で、予定時間どおりのお開きとなりましたが、和食先生がお見送りする会場出口が皆さんとのご挨拶で渋滞してなかなか進まないうちに、本日の閉会となりました。発起人の皆様、大変お疲れ様でした。

●最後になりましたが、今回の「和食克雄先生感謝の集い」の開催及び記念小冊子の刊行にあたりましては、多くの先輩方のご賛同を賜り、また、法政大学の関係者の皆様のご協力をいただきましたことを、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

以上



令和5年度定期総会決議等の概要

事務局より

令和5年度の定期総会を対面で9月2日に開催し、原案通り承認されました。報告事項、決議事項は前号の会報に掲載したのから変わっておりませんが、以下に再掲いたします。

1.会員数の推移

過去10年間の会員数は以下の通りですが、公認会計士法友会に参加の意思を表示しない・参加しないと意思を表示した人は累計で217名になっています。若手会員の活動をより活性化して周知し、参加を促す必要があります。

単位:人

H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
683	699	720	715	740	762	759	772	786	792

なお、令和5年度の公認会計士試験合格者のうち、法友会に加入の意思を表明した人は、令和6年3月31日現在で10名でした。

2.後進の育成のための高度会計人育成センターとの連携

会報第35号の「会長挨拶」及び「簿記チャンピオン大会」参加報告をご覧ください。

3.会費納入状況について

多くの会員の皆様から、年度会費、年度寄付金のご協力をいただきました。誠にありがとうございます。

(単位:千円)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
会費・寄付金	702	1,235	1,366	1,356	1,090
定期総会、合格祝賀会	1,302	—	—	520	1,088
収入計	2,004	1,235	1,366	1,876	2,178
支出	1,949	777	736	1,216	2,047
収支差	55	458	629	659	130

定期総会、合格祝賀会は、コロナ禍の影響により変動が大きくなります。会費・寄付金は、令和元年度以降、皆様のご協力により増加傾向にありましたが、今年度は減少しています。

今後も、奨学支援金支出の増加、合格者の増加等が見込まれますので、引き続き、より多くの会員の方への会費の納入のお願いと経費節減を合わせて行ってまいります。

4.決算・予算概要

令和5年度も、多くの会員の皆様から会費・寄付をいただきました。ありがとうございました。

①収入関連

令和5年度は、定期総会、合格祝賀会とも開催しました。しかし、コロナ禍前に開催した程の参加者数とはなりません。また、会費・寄付金をいただいた会員数も以前に比べ減少しました。これらから、予算には達しませんでした。

令和6年度は、令和5年度並みを想定しています。

②支出関連

令和5年度は、総会・祝賀会開催費用のうち、総会費用は、昨今の値上がりの影響を受けて予算比で増加しましたが、祝賀会費用は、参加人数が予算を下回ったこと、祝賀会に出席する合格者が想定を下回ったことなどから、予算比で減少しています。

令和6年度は、定期総会、公認会計士試験合格祝賀会の開催を予定しているため、関連の支出を計上しています。なお、昨今の物価の値上がりを受けて、値上がり分を考慮しています。また、合格祝賀会に出席する合格者は20名と想定しています。

「校友会終身会員登録会費」は、昨年の校友会寄付金の残金を活用して、若干名の終身会員の追加登録を予定しています。

「奨学支援金」は、「高度会計人育成センター」との連携により、簿記チャンピオン大会の成績優秀者に支払うもので、支給実績を勘案し、7名分を計上しました。

「その他」に含まれている「通信費」は、この秋に30%の値上げが予定されているため、その分を考慮して計上しています。

決算・予算概要(単位:千円)	R5年度予算	R5年度実績	R6年度予算
会費・寄付金	2,600	2,178	2,235
校友会(合格者お祝い金)	450	660	450
収入合計	3,050	2,838	2,685
総会・祝賀会開催費用	1,700	1,936	1,874
終身会員登録	150	—	150
奨学支援金	350	300	350
その他	760	471	633
支出合計	2,960	2,707	3,007
収支差	90	131	△322
前期繰越	3,447	3,447	3,518
未払金	△59	△59	—
次期繰越	3,478	3,518	3,196

以上



会員研修会報告

事務局より

令和6年9月2日(月)に公認会計士法友会の会員研修会を市ヶ谷キャンパスの外濠校舎の教室にて開催しました。講師は、古田 土 満会員で、会報第36号で紹介したように令和6年「春の叙勲」にて旭日単光章を受章されました。研修テーマは『将来の会計事務所これから独立開業を目指す若手会員に対するメッセージ』で、会員が多数参加していただき、大変充実した研修会となりました。



会費等納入の御礼

令和6年度(2024年10月7日まで)に会費・寄付等を頂いた方は以下の通りです。皆様、どうもありがとうございました。

(50音順、敬称略)

飯塚 昇	五十嵐 正明	井口 真宏	石川 亜依	石出 康子	井上 倫哉	太田 莊一	小野 隆良	柿沼 幸二
金子 祐大	河西 正之	北村 敏雄	君和田 和子	桑原 正信	神田 忠二郎	古田土 満	小林 保弘	齋藤 太郎
酒井 宏暢	佐藤 志郎	篠原 可奈	杉本 喜代美	高羽 直	高橋 和司	竹澤 正人	竹部 直一郎	館内 宏宣
堤 研一	遠山 景一	豊島 忠夫	中村 里佳	中山 理恵子	日浦 正貴	藤田 健吾	藤田 利弘	古川 直磨
發知 敏雄	本間 寛	松田 葉	矢野 冬也	矢部 豊	山本 義昌			

定期総会に参加いただいた方は以下の通りです。皆様、どうもありがとうございました。

(50音順、敬称略)

渥美 龍彦	新井 良明	飯塚 昇	石割 由紀人	井上 倫哉	鶴藤 葉子	太田 莊一	大谷 はるみ	小野 隆良
河西 正之	木下 恵嗣	倉持 直樹	古田土 満	小場 貴之	佐竹 健二	佐藤 康平	高橋 良輔	竹澤 隆国
西浦 正和	菲澤 政男	春山 直輝	福蘭 健	三浦 太	森口 輝来	矢部 豊		

校友会終身会員所属変更

令和6年度に年度同期会からの所属変更をしていただいた方は、以下の通りです。どうもありがとうございました。

(敬称略)

丹沢 祐介 鵜飼 颯大 中野 優音 山本 奈緒

公認会計士法友会事務局
〒169-0074
東京都新宿区北新宿4-19-15

E-mail: hosei.hoyukai@gmail.com

母校の発展と後進育成への貢献を
目指して活動しています。

12月末現在の会員数 792名

ホームページもご覧下さい。
<http://hoyukai.la.cococan.jp/>



編集後記



お正月といえば、個人的には箱根駅伝。今年も行ってきました。左の写真は復路ですが、ちょうど、中央学院大学と抜きつ抜かれつのところでした。

結果は、残念ながらシード入りは逃してしまいましたが、来年も本戦に出場してくれることを期待したいと思います！

箱根駅伝のビールをいただきました。出場校が印刷されていて、法政もオレンジで書かれています。

さて、会報第37号は、通常よりも多くの方に、かつ、内容も充実した寄稿をいただきました。そのため、通常よりもレイアウトに手間取り、発刊がぎりぎりのタイミングになってしまいました。

お楽しみいただければ幸いです。

今後のイベント予定

皆さん、ご予約ください。

・合格祝賀会：2025年1月25日
薩埵ホール

● 法政士業の会よりお願い

法政大学校友会では、卒業生等が経営している(関係している)お店を「法政オレンジMAP」にて紹介しています。しかし、士業の方の登録がほとんどありません。

ぜひ、登録いただければと思います。下記URLの法政オレンジマップのサイトから店舗情報入力フォームへ進んでください。

<https://hoseinet.or.jp/orangemap/>

令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日) 年度会費及び寄付金のご協力のお願い

法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われておりますが、合格祝賀会などの行事開催費、通信費などの運営諸経費、友好他大会計士会団体への参加費等の支出、また最近では、法政大学の公認会計士試験現役受験生の合格を支援する「奨学支援金」の原資として経常的な資金が必要であり、会員各位のご理解とご協力なくしては、持続的な活動が出来ません。

最近、会費及び寄付金を納めていただけの方が固定化し、また、減少傾向にあります。一方、会員の増加で定期総会や合格祝賀会のご案内にかかる通信費の増大や「奨学支援金」の拡充等も必要となっております。会員の皆様のご理解とご協力を強くお願いする次第です。

今年度(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)会費の納入と寄付金のお願いをさせていただきたく、郵便振替口座振込用紙を同封させていただきました。

毎年の年度会費及び年度寄付金に、いったいいくら納入すればよいのか分からないなどのご意見・質問が寄せられます。法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金の納入で支えられていますが、皆様に大きな負担を感じさせるのは本意ではありません。あくまでも会員の皆様のご厚意をお願いするものであります。

年度会費を納入されていない方につきましては、年度会費の5,000円だけでも結構ですし、年度寄付金・奨学支援金等の寄付金として10,000円(一口)だけを納入していただいても結構です。

もし、ご賛同をいただけるのであれば、年度会費と寄付金を合わせて15,000円を納入していただければ、大変、助かります。振込先を記入した郵便振替口座用紙を同封させていただきましたが、銀行振込をされる場合は下記の口座をお願いいたします。

銀行口座 三菱UFJ銀行 東中野支店(店番152) 普通預金・口座番号 1559256 口座名・公認会計士法友会
<連絡先> 〒169-0074 東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ
公認会計士法友会事務局 080-8886-0375 / hosei.hoyukai@gmail.com

Books!

書籍の出版情報を事務局までお寄せください。会報に掲載いたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。

※現在、書籍の保管場所がないため、受入は中止しています。この場合でも、出版情報は引き続き掲載したいと思いますので、お寄せいただきますよう、お願いいたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。